

## 第8回「ものの見方が変わる」(2011/4/17)

場所：カフェ クライン・ブルー

司会、文責：野田

参加者：12人

要約：見方そのものから、「ものの見方が変わること、変わらないことは良いことか」まで、幅広い視点で対話しました。

お題の説明：「ものの見方が変わる」或いは「ものの見方が変わらない」を含む問いを参加者自身が設定し、勿論問いの答えについても考える。

内容：

1. ものを見るときは
  - ・ ものを文字通り視覚的にみる。
  - ・ ものを見て、とらえる。
  - ・ そもそも見えない、抽象的な存在をとらえる（例：「神」）
2. 見方とは何か
  - ・ 感じる、考える。
  - ・ 見え方と見方、能動的にとらえることもある。
  - ・ ものがある、と解釈する。概念的にとらえる。
  - ・ きれいなものきたないものを峻別する基準がある。
  - ・ 約束事や先入観や基準などがあってそれをもとに解釈する。
  - ・ 形や動きを認識し、意味を読み込み、解釈する。
3. ものの見方が変わるときどうなってるのか
  - ・ 自分が変わらないのにものの受け止め方が変わる。
  - ・ ものの見方が変わることで、基準が変わる。
4. ものの見方が変わったことそのものの体験ってあるか
  - ・ コップを見ていて、視点が変わったことで見えたものが変わった。そのとき、ものが見方が変わると、見え方が変わるということそのものに気がついたという体験をしたという方がいらっしゃいました。
  - ・ ものの見方が変わったという経験がないとおっしゃる方も多くいらっしゃいました。
5. ものの見方が変わるきっかけ
  - ・ 世界観が維持出来なくなり、解釈をかえなくてはならないような強い体験をすると、ものが見方が変わる。
  - ・ 恋愛によって、気分が高揚する場合、逆に、余命がわかって一日一日が尊い場合には受身的にももの見方が変わってしまう。
  - ・ 職場の対人関係に悩んでいたら、悩みの原因になっている人も、その人なりの考えで行動していることを知って、ストレスが減ることがある。強い感情が引き起こされると見方が変わる。

- 芸術作品はものの見方を変える（デュシャンの泉）。
  - 眼鏡ふきがないときに、シャツで眼鏡をふくなど、他愛のないようなことでも見方が変わる。
  - 眼鏡を外してもものを見ると見方が変わる。
  - 見方が変わる場合に、ものを解釈するのに用いる文脈が変化して意味が変わる場合と、視点がそもそも変わって見方が変わる場合がある。
  - 騙し絵の一種に、複数の見え方が出来るものがあるが、そういったものはきっかけがなくても見え方が変わる。
  - きっかけがあって、急に変わるのではなく、徐々に変わることもある。きっかけが無意識に作用して、蓄積すると自己意識に変化が生じる。
  - 知識が増えるとももの見方が変わる。
7. 見方が変わることはいいことか
- なぜかどんどん変わっていくことはいいことだというような風潮や圧力があるように感じるが、変わることが良いこととは限らない。
  - 見方が変わることは単純に楽しい。
  - どんどん見方を変えていくと、行き過ぎた相対主義に陥ってしまうこともある。
  - 科学技術の発展や歴史の進展に伴って、徐々に見方を変えていくべきだ。

ものの見方が変わるきっかけについての議論で、色々な着眼点や考え方が出ました。色々な着眼点や考え方の違いをもう少し掘り下げる余地があったと思います。問いを明確に設定しなかったため、話が発散しました。参加者からは、「ものの見方」という、あたりまえに見える話題でも、人によって、考え方や感じ方や体験が異なっていることが分かったという感想を頂きました。一方、個々の話題の掘り下げが足りないとの指摘を受けました。お題の出し方を含め、会の進め方はまだまだ試行錯誤しております。